



鳥取県立船上山少年自然の家 主催事業

令和7年度「船上山冬のお楽しみ会」実施報告書



I 事業の概要

1 期 日 令和7年12月13日(土)～14日(日) 1泊2日

2 日 程

12月13日(土)		12月14日(日)	
13:30	受付	7:00	起床
14:00	出会いのつどい	7:30	掃除
14:30	オリエンテーション・荷物移動	8:00	朝食
15:15	交流レクリエーション	8:45	退所点検
16:00	クリスマスリース作り・休憩	9:00	和風作り・凧あげ
17:45	夕食	10:30	餅つき準備
19:00	星空観察	10:45	餅つき
20:10	入浴	13:00	感想記入
22:00	消灯	13:30	解散

3 ねらい 季節の行事や日本の伝統文化を家族で体験することで、親子のふれあいや家族の絆を深めるとともに、文化を学ぶきっかけとする。



4 対 象 小中学生とその保護者 8組



5 応募者 12組33人

6 参加者 8組20人(大人10人、子ども10人)



II 実施状況

■1日目の活動の様子<12月13日(土)天候 曇り>

主催事業「船上山冬のお楽しみ会」は、年末年始の伝統的な行事を参加者に楽しんでいただく新企画である。

出会いのつどい、オリエンテーションを行ったあと、指導員の交流レクリエーションで、参加者同士の緊張をほぐし、和やかな雰囲気で始めることができた。

最初はクリスマスリース作り。スギやヒノキ、ヒイラギ、さらにナンテンなど、自然物の飾りを多く準備し、飾り付けを楽しんでいただいた。どの家族も素敵なクリスマスリースを完成させることができた。

夕食後の星空観察は、講師の先生の講話からスタートした。当日は雲



が分厚く広がっており、星を見るのは難しいと思われたが、その時間だけ雲が消え、木星や北極星を見ることができ、参加された方から歓声が上がるなど、満足された様子だった。

■2日目の活動の様子<12月14日(日)天候 曇り>

2日目は、ナイロンとひご、凧糸を使った凧作り。ナイロンの大きさに合わせてひごを切り、凧糸を結び付け、最後はマジックでイラストを描いて完成。外に出て実際に飛ばしてみたが、この日は風が強く、どの凧も気持ちよさそうに飛んでいた。

続いていよいよこの企画のメインイベントの餅つき。食堂に杵と臼を2セット(1つは子ども用)準備した。参加者の中に、餅つきに詳しい方がおられ、その方のアドバイスを聞きながら、杵で餅をつく人と、合いの手を入れる人と交代しながら楽しく行うことができた。餅つきについては、事前に餅米の量や炊きあがりの時間、杵と臼の配置等を確認していたので、大きな混乱もなくスムーズに行うことができた。

参加者は出来立ての餅をほおばり、嬉しそうにされていた。お土産に皆さんでついたお餅を持って帰っていただき、大変喜んでおられた。

III 総括

I 参加者の感想(抜粋)

- ・他の家族とも仲良くなれて充実した2日間でした。最近は親子で餅つきをしなくなったので親子で体験できてよかったです。大満足でした。(大人)
- ・家族で参加したのは初めてで、とても楽しみにしていました。シーツを協力して敷いたり、片づけたり、そうじをしたり、ルールを守っての共同生活は子どもたちにとっても刺激的だったようです。(大人)
- ・1日目はクリスマスリースを作って、2日目は餅つきや凧作りをして楽しかったです。一番楽しかったのは凧上げです。また参加したいです。(子ども)

2 成果

- ・事前に餅米を蒸してみたり、杵や臼の配置を確認したり、実際1回に餅をつくとどれくらい時間がかかるのか、などを確認する場を設けたので、当日は大きな混乱もなく、スムーズに活動を行うことができた。
- ・最近はお餅をついたり、凧を作って上げたりする機会が減ってきているが、親子で日本の伝統行事を体験する機会を提供することができた。
- ・あらかじめ子ども用の杵と臼を準備しておいたので、子どもたちも餅つき体験を行うことができた。

3 課題

- ・餅で喉をつまらせることがないように、何度も声掛けを行った。もしもの場合、どのように対応するのか、職員間で共通理解を図っておくことが大切だと感じた。
- ・食べたり持ち帰ったりするお餅の数など、不公平にならない方法について再検討していきたい。
- ・お餅を食べる時の場所や方法について、よりよい流れになるよう再検討していきたい。

